# ふくろう新聞

社会福祉法人
ひょうご聴覚障害者福祉事業協会
一人ひとりを大切に(人権)
ともに生きる(共生)
＜発 行＞
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
〒 656-0002
洲本市中川原町中川原 28 番地 1
TEL：0799-25-8550
FAX：0799-25-8551
右の QR コードからホームページをご覧ください。

## お花見

寒かった季節もようやく終えて待ちに待った春がやってまいりました。4月5日（金）の日は晴天に恵まれ、入居者の皆さまとお花見へ行ってきました。入居者の皆さまの笑顔が印象的で、爽やかな気分で桜を眺める事が出来ました。

## 沈黙の五十年　～国から子どもをつくってはいけないと言われた人たち～

エイプリルフールは４月１日のこと。起源は分からないが嘘をついてよい日とされている。外国ではジョークニュースなど発信して国を挙げてこの日を楽しむ。日本には「嘘も方便」という諺がある。「方便」とは仏教用語で、真実の悟りに導くための手段を意味する。つまり嘘も物事を良き結果に導くための手段とされている。「援助」の場では声かけの大切さが言われる。利用者に機嫌よく遣る気を起させる方法になり得るのだろうか。

## 5月４日（土）先行上映決定！

《制作総指揮　大矢　暹氏》

国にだまされて、子どもがつくれない手術をされて、裁判で闘っておられる高尾辰夫さんや小林實二さん夫婦、名古屋の尾上一孝敬子さん夫婦をはじめ、兵庫の被害者も淡路ふくろうの郷に相談に来られました。勝楽佐代子さんの被害体験と我が子の代わりとの人形にも会われました。加えて弁護士の支援もあり次々と裁判に向かう決断をされました。

ふくろうの郷の存在が被害者の人権意識を変え国と闘う勇気をもたらしました。困難でしたがふくろうの郷を建設した意義がここにも発揮されました。感謝です。

多くの方々の協力とご支援により完成しました。深く感謝し、上映会のご案内をお届けします。
7月には最高裁大法廷で判決が下されます。手をつなぎ輪を広げ、
互いに包み合うインクルージョン社会をめざしましょう。

＜主催：映画『沈黙の 50 年』制作委員会 ・ きこえない人のひとりぼっちをなくそう PROJECT＞

### 先行上映会

2024 年 5月4日(土)
長田区文化センター別館 ピフレホール

ピフレホールへのアクセス
JR 神戸線／新長田駅南側
市営地下鉄／新長田駅南側
山陽電鉄／西代駅南へ徒歩 7 分
市バス／5・10・13・17・80
81・95・96 の各系統
「新長田駅前」下車
阪神高速／湊川ランプから西へ
約 600m。 専用駐車場なし
（駅前地下有料駐車場あり）

◆ 上映時間
上映約 60 分＋ミニ講演会 30 分
出演者の舞台挨拶 15 分
① 午前 10 時 30 分～
② 午後 2 時～
※ 開場は各 30 分前より

◆ チケット代（予約制）
前売り 1,500 円 当日 2,000 円
高校生以下（18 歳未満）
前売・当日とも 1,000 円
※ 入場は前売券購入者が優先

### 映画『沈黙の50年』上映会申込書

| | |
|---|---|
| お名前 | ご住所 〒<br>メールアドレスか FAX |
| ろうあ協会会員、難聴者協会会員、手話サークル会員、兵通研会員、その他（　　）、一般 | |
| 支払方法<br>※4 月 20 日までにお振込み頂いた方にチケットをお送りします。 | 振込先：郵便局（ゆうちょ銀行）<br>口座名：神戸市聴覚障害者福祉施設建設推進委員会(←口座名は名称変更前のまま)<br>記号：14360 番号：87539231<br>銀行からの振込は 預金種目：普通 店名：四三八店 口座番号：8753923<br>※振込料は各自ご負担願います。<br>※4 月 20 日以降は当日券となり、定員に達しましたら、入場できません。 |
| チケット枚数 | ①10：30～(　　)枚　②14：00～(　　)枚　合計（　　）枚 |

■お問合せ・申込みは、きこえない人のひとりぼっちをなくそう PROJECT 事務局までメールか FAX でお願いします
メールアドレス➡hitoribotch_0@yahoo.co.jp　FAX 番号➡078―798―7941

YouTube「沈黙の 50 年 PV　Vor2」　YouTube を見て映画へ行こう！➡➡➡➡

# 栄養調理係の紹介

2024年4月　現在調理係は、管理栄養士を含む8人の職員で業務を行っています。

しばらくの間7人だったのが、昨年の9月に新しい職員を迎えることができました。

普段の私たちは、長期と短期を合わせた70名分の食事を調理しています。

基本的に一日に必要な職員を5名として業務を行っています。通常の食事に加え、嚥下が難しい方のために、ムース食、ミキサー食も調理し、病気等で制限のある方のための食事も提供していますが、休みの調整をするにあたり、どうしても間に合わない時は、既製品を使用し、4名で現場を回しながら、人手不足が深刻な状況の中でも入居者さまの、「美味しかったよ、ありがとう」のお言葉に力を頂き、日々業務に励んでいます。時には「好みじゃない」というお言葉を頂いたり、食べたいものを示してくださいます。そのことからも今年度は行事食として春の松花堂弁当を提供するのですが、「何を出したら喜んでもらえるのかな」と、職員で考え実施することで、入居者さまの「美味しい！」の一言と笑顔が、私たち調理職員の喜びと、「この仕事をしていて良かった」と思えるやりがいに繋がっています。生活の中に欠かすことのできない食事。少しでも満足いただけるよう、今いる職員で頑張りたいと思っています。

月ユニットに入居されている島原さまは「いっぱい作ってるの？」「大変だね、お疲れさま」「いつも美味しいよ、ありがとう」のお言葉や、「素晴らしい」と言いながら拍手を送ってくださいます。北風さまは、「ご飯のおかげで私は元気！100歳目指すよ！」と話してくださいます。澤谷さまも、「美味しい。美味しい！」と笑顔で、「OK」と手話で表現してくださいます。その言葉や、行動に元気づけられ、日々の業務に追われながらも頑張ることができていると感じています。

さて、2023年9月に入職した職員に、ふくろうの郷に来ての業務について聞き取りを行いました。

「ふくろうの郷での仕事は、職員をはじめ、入居者さまもやさしく接して下さり、毎日楽しくできています。今までしたことのない業務が新鮮です。」と話してくれました。

まだまだ、私たち先輩職員がフォローすることもありますが、長く勤めてもらえる環境を作り、保ち、若さ溢れる現場にできるよう、気を引き締めようと改めて思うことが出来ました。

入居者さまの暮らしのため、食事が楽しみの一つとなるように、職員が一丸となって、これからも頑張っていきたいと思います。

(栄養調理主任　山本藍菜)

▲3月20日献立
小判焼き、トマト
サラダ、スープ
きんぴらごぼう

▶厨房の様子

◀スチームコンベクションオーブン
専用のバットを使い、蒸す、焼く、炒めるが可能。
業務終了時には自動洗浄を行い、長く使用するためのメンテナンスも行っています。

## ふくろう大学 修了式

令和5年度の修了式が3月19日(火)に行われました。修了式に参加された入居者さまは施設長より一人ひとりに、ねぎらいの言葉と一緒に修了証を手渡しで受け取られました。今年度も各々の入居者さまのケース担当の職員が、講座や行事に参加された入居者さまが輝いたり穏やかに過ごされている時の写真を選んで修了証を作りました。修了証を受け取られた入居者さまは「あの時の写真」と嬉しそうにされていました。最後に参加された入居者さま全員で集合写真を撮りました。

また、ある入居者さまはリビングに置いていて食事前の時間に「こんなん貰ってん」と他の入居者さまに見せて食事までの時間を楽しそうに話されていました。そんな姿を見ていると来年度も皆さまが穏やかに過ごせて楽しめる講座や行事を行い、参加を呼び掛けていきたいと思います。

(花木ユニット副主任　浦手寛仁)

# ふくろう物語
## 児島嘉彦様

昭和12年2月26日生まれ、現在87歳です。

岡山県邑久村（現瀬戸内市）で生まれ生活されていました。子どもの時は家の中より、外でボール遊びが好きでした。学校は岡山ろう学校（理容コース）で勉学とスポーツに励みました。奥さまとは学生の頃に知り合いその後結婚し、自宅で一緒に理容店を長く営業されていました。接客は奥さま担当で嘉彦さまはカット担当でした。

野球は観るのもするのも好きで学生の時は野球部に所属しキャッチャーをしていました。現在はテレビで野球観戦し阪神タイガースを応援しています。去年の優勝の時は大変喜んでおられました。

夫婦2人とも旅行が好きで、いつも夫婦で理容組合の旅行に行かれていました。大阪や神戸もよく来たそうです。

子どもは一男一女の2人で、子育ては奥さまに任せていたと話しています。

子どもが成長し独立したあと夫婦2人で過ごしていましたが、奥さまだけでは嘉彦さまの介護が難しくなり、令和5年2月にふくろうの郷へショート入所することになりました。

令和5年8月からは川ユニットで長期入居となりました。

入居当初は、行事にも積極的に参加されていましたが、徐々に居室で休まれるようになり、職員が言葉かけすると応じることもありますが、笑顔で拒否されることが増えています。

食事は3食とも食パンを食べられ、おかずは手を付けず残されることが多いです。

好物を尋ねると「お寿司、焼き肉」と話されています。巻きずしの時は驚くほど沢山食べられました。

リビングで過ごされる時は笑顔で他の入居者と手話での会話を楽しまれたり、ゲーム等にも参加し楽しんでいます。たまに気に入らないことがあれば大きな声を出すこともありますが直ぐに笑顔になられます。

今後も、奥さまや子ども達と会える機会を通じて、笑顔を絶やすことの無いようにお手伝いしたいと思います。

（月川ユニット　國久洋志）

▲パンの移動販売にて

### 4月ふくろうの暮らし

| | |
|---|---|
| 4/16(火) | ふくろう大学開講式 |
| | 自治会総会 |
| | ふくろう大学絵手紙講座 |
| 4/17(水) | ふくろう工房(喫茶) |
| 4/20(土) | ふくろう大学書道講座 |
| 4/24(水) | ふくろう大学料理講座 |
| 4/27(土) | ふくろう工房(ちぎり絵) |

## ニッセイ財団助成事業　中間報告会開催（3月1日：洲本市健康福祉館）

「当事者と専門職との連携によるきこえの健康支援体制構築事業」の運営委員会構成メンバー、洲本市・南あわじ市・淡路市の地域包括支援センターの担当課長、日本生命財団アドバイザー上野谷加代子氏（同志社大学名誉教授・日本医療大学教授）、宮城孝氏（法政大学現代福祉学部教授）にご出席いただき中間報告会を開催しました。

第1回目の「きこえのなんでも相談会」で聴力測定を行ったので、その結果を記録できて、きこえの改善アドバイスや補聴器購入補助制度などの情報を記載した「きこえの健康手帳」の作成や百歳体操と同様にきこえの啓発用ビデオの開発につなげたいと報告しました。治療・補聴器の装用や補聴援助機器の活用により、生活環境の改善が生活の質の維持向上につながると考えられます。年1回の聴力測定やきこえの啓発講座はヒヤリングフレイル予防として効果があるだろうとの認識を共有しました。今後の事業についてはアドバイザーの教授より「きこえなくても暮らせる」社会生活モデルで進めてほしい。「きこえの健康手帳」については開発・普及させるためにもデータを積み上げてほしい。市の担当者からは「きこえの健康支援プログラム」ができればサロンや集いの場等でぜひ活用したいなどの意見が出ました。

いただいたご意見を今後の事業に活かしていきたいと思います。

（聴覚障害者センター　助成事業担当　高木）

# 淡路聴覚障害者センター便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館３階

## 令和６年度 センター重点目標

新年度がはじまります。

コロナの行動制限もゆるみ、今年度は本格的な活動ができると期待しています。聴覚障害者のニーズの多様化や生活様式の変化に伴い、事業を展開していきます。（瀬田）

**○経営基盤の安定化**
- センター利用登録者の再確認（継続）
- 聴覚障害者に理解のある人の拡充
- 登録手話通訳者・要約筆記者の増員

**○サービス品質の向上**
- 難聴者支援の強化
- 利用者の相談・困りごとに合わせた支援
- 聴覚障害者のニーズの把握
- 難聴児とその保護者との関係づくり

**○組織風土の改革、人材育成**
- 職員の専門性の向上
- 資格取得研修への補助

## 登録手話通訳者技術研修会

3 月 16 日（土）に兵聴協講師団の星百合香氏を講師にお迎えして、「聞き取り表現通訳」を開催しました。

最初に状況や感情を伝える工夫が必要な短文、次に斉藤兵庫県知事のあいさつ文に挑戦しました。Z 世代や脱炭素、ひようごフィールドパビリオンなど耳慣れない言葉に四苦八苦。

参加者からは「新しい手話表現、時事問題、広く浅く社会へ目を向け時代に敏感であることの大切さ、それを自分の中に落とし込んでいけるよう努めたい」との感想がありました。（酒井）

## 第 27 回あわじ耳の日のつどい

3 月 24 日（日）淡路市津名公民館で「第 27 回あわじ耳の日のつどい」が開催され、行政関係者、島内外の聴覚障害者、手話サークルの会員など 50 名余りが参加。

デフリンピックに 2 回出場経験のある高砂ろう協会の長澤理佐子氏から「私とデフスポーツ」と題して講演いただきました。職場からの理解も得て、厳しい練習に参加、これからも生涯頑張りたい、ろう者スポーツへの理解を広めたいとの力強いお話に聞き入りました。

## 令和５年度手話奉仕員養成講座修了式

令和 5 年度 4 か所で開催された講座が修了し、3 月 14 日各会場で修了式が行われました。

参加者 52 人、修了者 43 人でした。各会場では修了式のあと、一人ひとりが「1 年のまとめ」に沿って 1 年間仲間と共に学べたから頑張れたこと、また手話だけでなく、聞こえないため、生きていくことの困難さを学べた、今後、何らかの形で支援したい、手話サークルで学びを続けていきたい、などの抱負を習得した手話を使って発表をしました。

▲淡路会場の修了者のみなさん

## 手話ステップアップ講座

手話技術力アップのための講座です。手話サークル活動を基本に据えて、更なる手話技術力のアップを目指して一緒に学習しませんか。

○日時：令和 6 年5月 7 日(火)～12 月17 日(火)19:15～21:00（全 18 回）
○場所：洲本市健康福祉館 3 階会議室
○対象者：手話サークル会員で手話通訳者養成講座未受講者の方
○受講定員：15 名
○受講料：無料
○申込締切：4月 20 日(土)

# 自然災害避難訓練を行いました

中川原高齢者・障がい者地域
ふれあいセンター

〒656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原222-2
TEL　0799-28-0990
FAX　0799-28-0992

3月19日(火)午後1時45分から、中川原ふれあいセンター利用者・職員36名で事前に車いすを利用している方の人数は把握されていました。

地震発生を想定し、安全ヘルメットを被って、洲本給食センター側の駐車場へ避難誘導を行いました。おのころの家とデイサービス利用者の車いすを押したり、誘導に協力してもらいました。優先順位などを職員間で共有しておくようスムーズに怪我なく避難できました。

（防災担当　橋詰）

## ～参加した感想～

ふれあいセンターにおいて、自然災害（地震）の避難訓練を実施しました。施設内で職員同士声を掛けたり、見てわかるようにカードを掲げるなどして、全員で駐車場へ避難。これまでと違うのは、皆さんがヘルメットを被っていたこと。自然災害はいつ起こるか誰にもわかりません。こうした訓練を重ねて、いざという時に備えたいですね。

（相談専門員　髙木）

いつもデイサービスのフロア内は、ゆっくり押し車や杖で歩かれている利用者さんがいらっしゃいます。いざ屋外に避難となると、安全な場所までは遠く車椅子に乗り替える方もおられました。

緊急時は慌てます、事業所同士協力し合って迅速に避難できる対応訓練が大切だと思いました。

（デイサービス職員　竹内）

農業班は慣れた場所からの避難とは別に、畑や地域支援での訪問先等、〝避難をする〟という意味では不慣れな場所での作業が多くあります。訓練で学んだ避難とは別に、避難の際のルールやどんな場所が安全かを皆で話し合い共有していく必要があると思いました。

（おのころ農業班　矢田）

毎年定期的に行なっている避難訓練を行いました。みなさん避難の方法や順路など覚えておられスムーズに避難できました。今回は作業中に地震が発生した想定での訓練でした。

今後は、昼食時や昼休憩時に発生した場合等も想定して話し合いをしておくことも必要だと思いました。

（おのころ室内班　興津）

訓練が始まる前、利用者さんはそれぞれに作業を行っていました。訓練が始まり、一人一人に指示を伝えることに少し時間がかかりましたが、指示に従ってスムーズに行動していました。先導する職員に付いて、短時間で避難場所にも移動することができました。

日頃から訓練を行うことの大切さを感じました。

（おのころ屋　山田）

神戸長田ふくろうの杜
兵庫県神戸市長田区神楽町5丁目3の14の1
〒653-0836 電話：078 798 7940
FAX: 078 798 7941

## プレ（お試し）「こども食堂」

3月9日（土）ふくろうの杜の1階でお試し「しんながたこども食堂」を開催しました。主催は細田神楽まちづくり協議会で、ふくろうの杜は地域貢献事業として場所の提供とお手伝いをしました。他には地域の事業所や保育所、幼稚園、児童館の職員、そしてまちづくり協議会の役員がこども食堂の実行委員のメンバーです。本格的な開催は4月から、第3土曜日の午後4時から6時、学習、余暇と食事の提供です。

子ども食堂は「こどもの居場所つくり」の一つとして全国的に展開されています。神戸市長田区にはすでに30のこども食堂がありますが、ふくろうの杜のある細田神楽地域にはなく、かねてから「こども食堂」をしたいという思いを持ったまちづくり協議会とやってほしい思いの長田区社会福祉協議会、「こども食堂」延いては「みんな食堂」の必要性と意義を感じている神戸長田ふくろうの杜の思惑が合致し実現に至りました。あくまでも主体は地域です。くしくも計画を進めようとした矢先、まちづくり協議会の会長が骨折、入院され、ビラ作り、企画案作り、補助金申請などふくろうの杜に託されました。退院後、地域の事業所などに声かけしてくださり実行委員の集まりが後になりましたが、皆さん地域を盛り立てて行こうという共通目的を確認しあっての「お試し」です。

しかし、実際、当日は子どもの参加が5名、地域の高齢者3名、他は実行委員と社協の職員と圧倒的にスタッフが多かったのですが、来てくださった子供や高齢の皆さんには楽しかったとのお声をいただき、ちょっと安どの胸を撫でおろしました。今後は、そこから見えてきた沢山の課題を、一つずつ検証しながら、4月20日の本番を迎えたいと思います。

眞木　崇江

## 備えあれば憂いなし「消防避難訓練」

3月2日（土）神戸長田ふくろうの杜の消防避難訓練を行いました。今回も地域の細田神楽まちづくり協議会顧問で元消防士の野村さんにご協力いただき、今年度2回目の訓練を実施しました。

1階の食堂での火災を想定し、実際に非常ベルを鳴らし、消防への通報訓練を行い、利用者と職員が避難訓練を行いました。開所から経過して何度も繰り返してきた成果もあり、皆さんスムーズに避難を行うことができました。

避難訓練の後は、水消火器を使った消火訓練を行いました。

その後は、施設に入り野村さんからお話をいただきました。「命を守る行動が大切です。煙から身を守るためには透明のビニール袋を頭にかぶると視界を確保しながら安全に非難することができます。」と利用者も実際にゴミ袋をかぶる練習をしました。

今後も火災だけでなく、地震などの自然災害も想定した訓練が必要になっています。利用者・職員の命を守ること、地域の拠点となることを目指して、日々考えながら備えの準備を行っていきます。

竹原　哲章